

1 主題名

「わがままをしないで」 【A 節度, 節制】

2 資料名

「かぼちゃの つる」(教育出版)

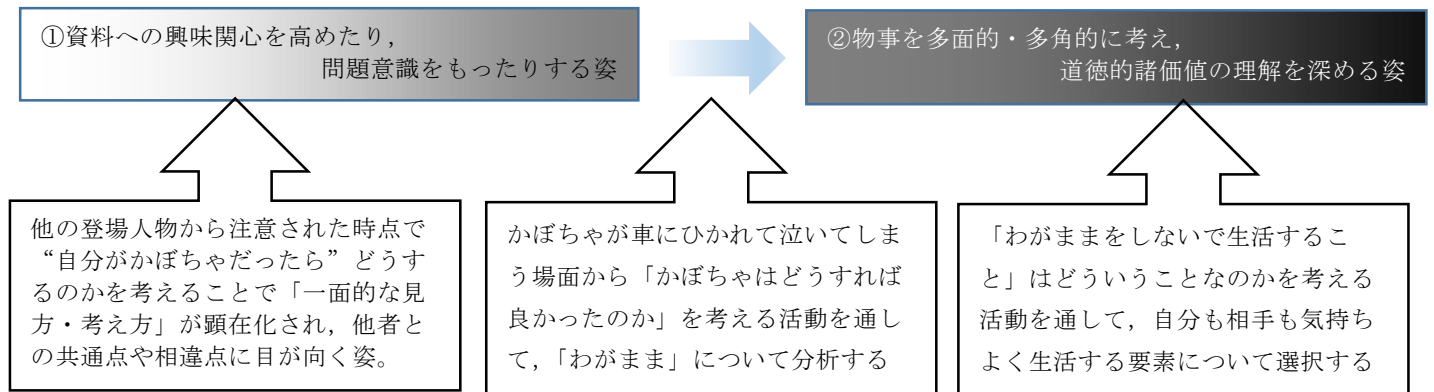
3 主題と資料について

わがままな「かぼちゃ」が、自分のしたい放題に自分のつるをのぼしていく。途中で「みつばち」や「すいか」、「こいぬ」がやってきて注意を受けるが、かぼちゃはお構いなしにつるを伸ばし続ける。遂には「みち」までつるを伸ばしたかぼちゃだったが、そこで通りかかった車につるを切られてしまい、かぼちゃは涙を流して泣いてしまう。他者からの忠告を聞かずに自分勝手に振る舞ったかぼちゃが、最後は痛い目にあうという教訓を含んだ資料である。

4 本時のねらい

本教材では、「安全に気を付け」「わがままをしないで」で生活することをねらいとしている。つまり、進んで自分の生活を見直し、自分の置かれた状況について思慮深く考えながら自らを節制することによって、自分も相手も気持ちよく生活することができるという気付きに繋げていきたい。

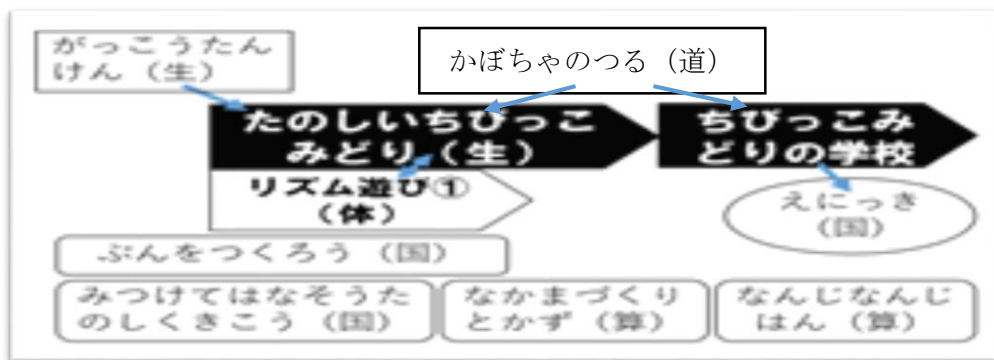
5 本時において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」



①は、「一面的な見方・考え方」を働かせる段階で目指す姿である。また、ここで抱いた興味・関心・問題意識は、②の姿へとつながっていく。

②は、主として「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」を目指す姿である。児童が「資料」という共通の疑似体験を通して、多様な価値観に触れながら、物事を多面的・多角的に考え、道徳的諸価値について理解を深めていく。

6 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



入学してから 2 ヶ月が経ち、学校にも慣れてきたこの時期は、善悪を深く考えることなく自分勝手な行動をとってしまい、他人に迷惑をかけたったり危険なことをしたりすることがある。2 週間後に 1, 2 年生で実施される「ちびっこみどりの学校」では、2 年生の言うことをよく聞いて行動することが求められる。1 年生がわがままをしてしまうと、班のメンバーに迷惑をかけてしまうことも考えられる。そのため、この時期に節度・節制について触れることで、自分も相手も全員が快適に活動することのできる行動とはどういうものなのかを考えられるように設定した。今後の生活につながるような児童の思いや発言を大切にしていきたい。

7 本時について

(1) 本時のねらい

周囲からの注意や忠告を聞かずに自分勝手につるを伸ばし続けた「かぼちゃ」の行動を考える活動を通して、わがままや自分勝手な行動が周囲の人に与える影響について理解し、周囲に対する気配りや思いやりをもって生活しようとする心情を育てる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

かぼちゃがつるを伸ばすべきか伸ばさないべきか場面を分けて考え、理由を述べ合う活動を通して、わがままをしないことが自分だけでなくみんなの快適な気持ちに繋がることに気づけるようにし、個の内面化へとつなげる。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 自分が「やりたいことを我慢できずにやり続けた」場面について、自分の経験をもとに考える</p> <p>したことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームがしたくて、きめられた時間をすぎてもやってしまったことがある ・自分のおかしがあったが、他にも食べたくて食べていたらお腹がいたくなった 	<p>【個の確立】</p> <p><input type="checkbox"/> 経験的思考を働かせ、自分が「やりたいことを我慢できずにやり続けた」経験が誰にでもある身近なものであることを実感する。</p>	
<p>2 かぼちゃがこいぬに注意されたところまで（P.14～15）を読み、かぼちゃの行動について考える</p> <p>つるを伸ばしてもよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのびうごきたいから ・伸ばさないと成長できないから ・ちょっとならいいと思うから <p>つるを伸ばしてはいけない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めいわくをかけてしまうかもしれないから ・注意されたから ・みんなが困っているから <p>・教師が「かぼちゃ」となり、児童に「みつばち」「すいか」「こいぬ」の役割を割り当てることで、かぼちゃの行動が他者へ与える影響について考えを深める。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】</p> <p><input type="checkbox"/> かぼちゃが他の登場人物に注意されても「わがまま」を止めない状況を確認したうえで、「かぼちゃ」の行動について問うことで、「見方・考え方」を引き出していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 「かぼちゃはどうすればいいですか」</p> <p><input type="checkbox"/> 「かぼちゃ」の行動が及ぼす影響についてイメージしやすくするために、児童に役割を与え、実演することで「わがまま」が与える影響について自分事として捉えることができるようにする。</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するように促したり、組み合わせて考えたりするように伝える。</p>
<p>3 かぼちゃがくるまにひかれて泣くところまで（P.16）を読み、かぼちゃの行動について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が「かぼちゃ」となり、児童に絡みついた“つる”を切ることでかぼちゃについて考えを深める <p>「かぼちゃ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり自由な方がのびのび育てるよ ・せまい場所ではたいくつだしきゅうくつだよ <p>「みつばち」「すいか」「こいぬ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意をきかないのはよくないよ ・わがままをすると、他の人にめいわくになるよ ・自分はよくても、みんなが困るよね ・ちゃんと聞かないと、自分が痛いめにあっちゃうよ <p>自分の畑で伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も自由にできるし、他の人にめいわくをかけなくていいから ・みんなが笑顔になれるから 	<p>【見方・考え方を高める】</p> <p><input type="checkbox"/> つるを切られたかぼちゃの気持ちと、他の登場人物の気持ちを考えることで状況を整理する。</p> <p><input type="checkbox"/> かぼちゃの行動について考える発問から、つるを伸ばすことに対しての多様な考え方に触れることで、「見方・考え方」を高めていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 「かぼちゃはどうすればよかったですか」</p> <p><input type="checkbox"/> 「かぼちゃはつるをのばしてはいけないですか」</p> <p><input type="checkbox"/> 「みんなが笑顔になれる方法がありますか」（互惠性）</p>	
<p>4 本時から学んだことを話し合い、記述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わがままをしないで生活したい ・自分のことばかりにならないようにしたい ・自分がやりたいことをするとき、周りの人のことも考えないといけないね ・みんながいいきもちで生活できるといいね ・相手の気持ちを考えてあげられるといいね 	<p>【個の内面化】</p> <p><input type="checkbox"/> 「かぼちゃから学んだことは、どんなことですか」</p> <p><input type="checkbox"/> 価値そのものを問う発問「わがままをしないとはどのようなことですか」をし、かぼちゃの行動から学んだことを話し合わせ、内面的思考を促す。</p>	<p>【発言】 【ワークシート】</p>

